

(1)ビジョン推進協議会主催取組全般(ビジョン推進協議会・庄野事務局長)

- 双葉郡ならではの魅力的な教育の推進
 - 「ふるさと創造学～平成 27 年度・(郡内小・中・高校) 実践事例集～」策定
 - 第 2 回「ふるさと創造学サミット」開催
 - 公開授業研究会、教職員による双葉郡子供未来会議の実施
 - 双葉郡 ICT 活用推進委員会
 - Google Apps for Education 日本総括責任者との会議 (2015/11/10)
 - 第 2 回推進委員会 (2015/12/15@郡山)
 - 第 3 回推進委員会 (2016/2/17@郡山)
 - 他地域との交流
- 教育を中心とした双葉郡の絆づくり
 - 広報誌「ふたばの教育」発行
 - 双葉郡小学校絆づくり交流会
 - 双葉郡中学校・ふたば未来学園高校交流会
 - 第 2 回双葉地区中高連携協議会 (2015/11/13@郡山)
 - 学習支援拠点の相互受け入れ
- 多様な主体との連携による教育と地域復興の相乗効果
 - 双葉地区学校支援地域本部
 - 外部講師による授業・部活指導等
 - 「ふたばの教育復興応援団」はふたば未来学園高校で特別授業を実施。来年度は小中学校にも来ていただけるように改めて調整を図る
 - 各町村の小中学校では、独自に地域の方々や様々なテーマに関する専門家、指導者などを招き、児童生徒への指導を行っていただいている
 - 福島大学による支援活動
 - ふたば未来学園高校での学習支援活動
 - 双葉郡内各小中学校の行事への参加、ボランティアでの協力
 - ビジョン関連行事(双葉郡小学校・中高交流会やサミット)のボランティア
 - OECD 地方創生イノベーションスクール など

以上

※個別取組の実施詳細は次頁以降参照

(2)「ふるさと創造学」カリキュラム検討・教員研修(担当: 島山教育長、石井教育長)

- 活動方針
 - 「ふるさと創造学」を中心に、ビジョンで実現したい一貫した教育の実践に向け、教員研修やカリキュラム検討を行う
- 体制
 - カリキュラム検討・教員研修委員会：小中高校の教務主任を中心に構成
 - カリキュラム検討部会：小中高校の現職担当を中心に構成
- 実施概要
 - 公開授業研究会（2015/11/6@三春・富岡第一第二小中学校）
 - 目的：「ふるさと創造学」を通して育みたい力のひとつ「課題解決力」の育成を総合的な学習の時間だけでなく教科でも展開し、授業改善に生かす
 - 内容：算数・数学の公開授業と研究協議会（講師：齋藤一弥 横浜市立羽沢小学校長・元横浜市教育委員会主席指導主事）
 - 参加者：56名
 - 成果：「ふるさと創造学」のねらいや培った手法の教科における発展の可能性を確認できた。また参加者は、「ふるさと創造学」で育成を目指す「主体性」「協働性」「創造性」を次期指導要領の考え方で捉え直すことができた
 - 教職員による双葉郡子供未来会議（2016/1/13@郡山・ビッグパレットふくしま）
 - 目的：「ふるさと創造学」の成果と課題を確認し次年度への展望を持つ
 - 内容：NPO 法人 Teach For Japan 代表理事・松田悠介氏による講話、「ふるさと創造学」実践発表（熊町・大野小、浪江中）、教員同士の意見交換
 - 参加者：48名
 - 成果：「ふるさと創造学」の背景・ねらいを踏まえた上で、目の前の子供たちにどんな力を付けさせるべきか、そのために何ができるかを教員同士が意見交換できた。他校と実践事例を共有し合い、次年度へのヒントを得た
- 委員会活動など
 - カリキュラム検討部会（2015/10/23、11/25@郡山）
 - 各校での「ふるさと創造学」の成果と問題点を持ち寄り共有し、来年度のカリキュラム検討のための研修や資料の在り方の参考とした
 - カリキュラム検討・教員研修委員会（2016/1/13@郡山）
 - 各校教務主任が「ふるさと創造学」の事例・計画を持ち寄り共有し、今年度の振り返りと次年度のカリキュラム検討のポイントを協議した
- 次年度の研修予定
 - ふるさと創造学教員研修会（2016/4/21 予定）
 - 公開授業研究会（2016/6/9 予定）
 - 教職員による双葉郡子供未来会議（2017年1月予定）

以上

(3)情報発信・コミュニケーション(担当:島山教育長)

□ 目的

- 双葉郡内各校の取組や子供たちの姿・思いを、教員や子供の視点を大切に地域内外へ取組を発信することで、ふたばの絆をつくとともに、表現・発信等のアクティブ・ラーニングにつなげる

□ 委員メンバー (広報誌の企画、制作)

- | | |
|--------|---------------------------|
| 島山 熙一郎 | 浪江町教育長 (委員長) |
| 庄野 富士男 | 双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事務局長 (委員) |
| 伏見 伸一郎 | 富岡町立富岡第二小学校長 (委員) |
| 板橋 優子 | 浪江町立浪江中学校 教諭 (委員) |
| 吉田 夏子 | 福島県立ふたば未来学園高校 教諭 (委員) |
| 中尾 友子 | 外部アドバイザー |

※ その他協力

写真撮影: アンソニー・バラード先生、フィリップ・ジェリーマン先生 (双葉町 ALT)

映像編集: 門馬徳夫 浪江中学校教諭

当日取材: 交流会、ふるさと創造学サミット当日スタッフ教職員・ボランティア等

□ 協議会広報誌「ふたばの教育」概要

- 読者: 双葉郡の地域の方々・保護者 (各町村の広報誌に同封し 8 町村全戸へ発送) および双葉郡内教育関係者 (郡内各校、県教育委員会等へ発送)
- 部数: 約 38,000 部
- 発行: 秋号=2015 年 11 月 1 日配布、春号=2016 年 3 月 1 日配布
- 編集方針:
 - 子供たちや学校の今を伝えるために、現場教職員が自らテーマ検討、取材、記事作成などを行う
 - 秋号は「8 月交流会」、春号は「12 月ふるさと創造学サミット」を特集
 - 学校紹介・PR ページは、各校から発信したい記事・写真を募った

□ 委員会活動など

2016/11/18 第 3 回委員会開催 → 誌面レイアウト作成、サミット取材・編集

2016/2/17 第 4 回委員会開催 → 今年度振り返り

□ 協議会 Web サイト

- 主催活動、各校行事や特色ある取組等を発信 (現在は事務局が取材、ページ作成)

□ 成果と課題

- 成果: 各校から寄せられた記事、委員を中心に教職員による取材により、子供たちに寄り添う現場発信の紙面を作成できた。ICT 活用推進委員会と協力し、AR サービスを用い動画発信を新たに行った
- 課題: 子供たちの学びとつなげること、読者との双方向コミュニケーション

※別紙「ふたばの教育」vol.5 (2016 年春号) 参照

以上

(4)ふるさと創造学サミット(担当:矢内教育長、半谷教育長)

□ 第2回ふるさと創造学サミット開催概要

- 日時：2015年12月12日(土)10時40分～14時15分
- 会場：郡山市中央公民館 多目的ホール
- 目的：「ふるさと創造学」の成果の地域への発信、学びを通じた交流・協働
- 内容：各校の「ふるさと創造学」の取組を紹介するポスターセッション
- 参加者：504名

□ 実行委員メンバー(サミットの実施内容検討、運営)

- | | |
|--------|------------------|
| 矢内 賢太郎 | 檜葉町教育長(副委員長) |
| 半谷 淳 | 双葉町教育長 |
| 横山 浩志 | 相双教育事務所 指導主事 |
| 遠藤 和雄 | 浪江町立浪江小学校長(委員長) |
| 小野田 敏之 | 大熊町立大熊中学校長(副委員長) |
| 井出 小枝子 | 富岡町立富岡第一小学校 教諭 |
| 倉 正道 | 葛尾村立葛尾中学校 教諭 |
| 宮内 忠志 | 福島県立ふたば未来学園高校 教諭 |
| 菊池 宏子 | 外部アドバイザー |

□ 成果と課題

- 成果：郡内小中高が一堂に会した初の機会。各校がサミットを一つの目標に取組全体をブラッシュアップし、当日それぞれが他校に刺激を受け今後の取組のヒントを得た。子どもたちは、一般に開かれた場で表現・発信を実践し、来場者の反応や会場の状況に応じて力を発揮するなど、学校ではできない体験をした
- 課題：「ふるさと創造学」の価値観やねらいの共通理解促進と、各校の独自性や創意工夫を生かした取組の推進。双方向のコミュニケーションがより活発になるような会場設定や発表スタイルの工夫、各校の取組内容、児童・生徒の振り返りや意見・感想等のアーカイブと共有化

□ 次年度計画(案)

- 日時：2016年12月3日(土)10:15～14:30
- 場所：南東北総合卸センター(郡山市喜久田)
- 実行委員会は、各町村1名+高校1名委員を選出いただき構成

以上

(5)他地域交流(担当:半谷教育長、矢内教育長)

□ 目的

地域に関わる人びとと交流することで、

- ①他地域の課題や取組の工夫を知り、その思いや考えにふれる
- ②自分自身の生き方を追求し、地域の発展への視点を育む

□ 実施企画

- 隠岐島前高校・ふたば未来学園高校交流事業（2015/9/20～23）
- 福井県さばえまちづくり体験ツアー（2015/10/10～12）

□ 今年度取組の成果

- 参加生徒は同年代の活発な活動やその思いにふれ、今後の活動への意欲を高めたり自分たちの地域を見つめ直したりするきっかけとなった
- 参加教職員が先進的な取組に刺激を受け、意識・意欲の高まりが見られた
- 隠岐島前高校との交流事業は、ふたば未来学園高校がフィールドワーク先農園と文化祭でコラボするなど、広野・川内を中心に地域との連携の契機となった

□ 次年度取組の方針

- 今年度の交流事業で得たつながり等を生かし、先進的な取組を行う他地域が主催する事業等に、双葉郡の中高生や教職員を派遣する（候補例：海士町・隠岐島前高校主催旅企画「ヒトツナギ」、鯖江市主催「JK サミット（仮称）」等）

以上

(6) 双葉地区学校支援地域本部(担当:秋元教育長、浅野教育長)

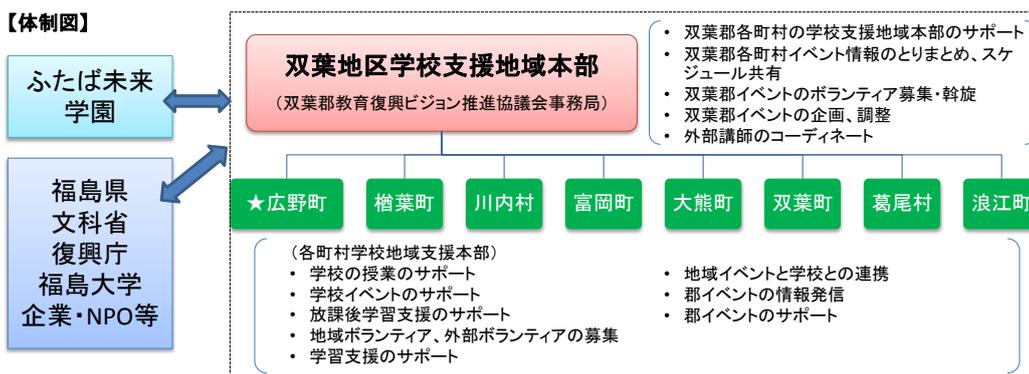
□ 設置目的 (2015年6月4日設置)

- 多様な主体(各学校の応援団として家庭・地域・NPO・企業等)との連携により子供達への教育の充実を図り、もって教育と地域復興の相乗効果を生み出す

□ 委員メンバー

- 双葉郡 8 町村の地域コーディネーター
井出茂一 川内村教育委員会教育課社会教育指導員(副本部長)
尾内ハツ子 大熊町教育委員会学校支援コーディネーター
岩谷一登 葛尾村教育委員会主任主査兼社会教育係長
荒木信彦 富岡高等学校桜風寮長/双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事務局
反畑増生 浪江町立津島中学校長
佐藤友輝 檜葉町教育委員会教育総務課主査
加賀博行 広野町教育委員会学校教育課長補佐兼係長
阿部裕美 双葉町教育委員会主幹兼指導主事
- 双葉郡 8 町村立小・中学校教職員を代表する者
新井川美千枝 双葉郡小中学校長会連絡協議会会長/富岡町立富岡第一小学校長
- ふたば未来学園高等学校教職員を代表する者
丹野純一 学校長
- 双葉郡 8 町村教育委員会を代表する者
秋元正 川内村教育委員会教育長
浅野一 広野町教育委員会教育長
- その他、地域本部の活動に賛同する者
赤井博道 株式会社赤井金属工業代表取締役(本部長)
水野谷知恵 双葉高等学校前 PTA 会長

【体制図】



□ 支援活動実績 (例)

- ふたば未来学園新設校舎設計ワークショップへの地域の参加促進 (2015/12/21、2016/3/15)
- 富岡高校バドミントン部 OB による部活動指導コーディネート (2016/1/30@双葉中学校・檜葉中学校合同)

- アクセンチュア（会津若松）によるロボティクスプログラミング授業コーディネート（2016/2/26@熊町・大野小学校）
- その他各小中学校への地域人材等の外部講師招聘に係るコーディネート（通年／各町村学校支援地域本部・地域コーディネーターによる手配）

□ 研修等

- 学校支援実践研修会参加（2015/10/28@相馬市立磯部小学校、12/7@飯館村）
- 東山田コミュニティハウス視察研修（2016/1/28）

□ 今年度取組の成果

- 学校支援地域本部を立ち上げ、修等で各町村の地域コーディネーターが顔を合わせたことで、情報や課題を共有できるネットワークが生まれた
- 地域コーディネーターによる地域との連携や外部講師授業の実績を上げることができ、いずれも学校からの評価も高かった

□ 次年度の取組の方針

- 地域コーディネーター同士が情報共有できる機会を引き続き設け、町村をまたいだコーディネートにつなげていく
- 学校現場で活用可能な外部プログラムのリスト化を進める

以上

(7)絆づくり・学習支援/WG3(担当:猪狩教育長、石井教育長)

□ WG3 委員

猪狩 省造	葛尾村教育委員会教育長
石井 賢一	富岡町教育委員会教育長
新井川 美千枝	富岡町立富岡第一小学校長
荒井 優	東日本大震災復興支援財団専務理事
中鉢 博之	NPO 法人ビーンズふくしま被災子ども支援部門理事
木村 政文	福島県教育庁相双教育事務所長
原 典久	復興庁原子力災害復興班参事官

【絆づくりについて】

- 今年度実施企画：「第1回双葉郡8町村小学校・絆づくり交流会」（2015/8/20）
- 次年度計画（案）
 - 日時：2016年8月10日（水）10:30～14:00
 - 場所：ビッグパレットふくしま 多目的ホール・屋外展示場
 - 実行委員会当番校：大野・熊町小学校、次年度当番校：浪江・津島小学校
- 中高交流会（中高連携協議会で検討）
 - 日時：2016年8月17日（水）予定
 - 小学校絆づくり交流会同様、委員会形式で実施内容の企画検討を行う

【学習支援の状況について】

- 学習支援の状況
 - 県内で各町村等により開催されている学習会、フリースクール（いわき：学べるコムネット運営・中通り：ビーンズふくしま運営・会津：寺子屋方丈舎）を一覧化、「双葉郡の仲間と一緒に学ぼう」と題したチラシにまとめ広報（11月）
 - ウェブサイトでも県内学習会一覧を公開
- 利用状況（いわき地区：学べるコムネット運営）：3/24時点

町村	学習支援拠点	場所	対象	参加人数
楢葉町	ゆずり葉学習会	楢葉小中学校仮設校舎	中学生	65名
	ゆずり葉学習会（空の家）	楢葉町サポートセンター空の家	中学生	5名
双葉町	ふたばっ子学習会	双葉町立小中学校	小・中学生	8名
	ふたばっ子学習会（南台）	双葉町南台応急仮設住宅第三集会所	小・中学生	5名
大熊町	おおくま放課後学習会	大熊町好間第三応急仮設住宅集会所	小・中学生	8名
	フリースクール・ラトフサテライト	いわき駅前LATOV	小・中学生	3名（中学生）

□ 今後のすすめ方

- 引き続き新学期等のタイミングで学習支援の広報を実施

以上